



泗水図書館 ☎ 0968 (38) 6866
中央公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1672
七城公民館図書室 ☎ 0968 (25) 1580
旭志公民館図書室 ☎ 0968 (37) 3111
内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
七城公民館図書室 日曜日・祝日
旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき

菊池溪谷で涼んだ後は、図書館(室)まで足をのばしてみませんか? ごぼう



新着・お薦め図書

泗水図書館

風
木下順二の世界
ワイフ・プロジェクト
現代詩入門 新版
チャイルド・プア
難病カルテ
タマゾン川
すずむし

青山七恵 著
井上理恵 編著
グラム・シムシオン 著
吉野 弘 著
新井直之 著
時田備憲 著
山崎充哲 著
黒井 健 絵

中央公民館図書室

ナゾの遺構「トンカラリン」
いちばんやさしいガンブラ「超」入門
ボケないための笑いヨガ
二重螺旋の誘拐
背徳のぐりりよざ
れっつ!シュート!!
クッキーひめ

杉森猛夫 著
オオゴシトモエ 著
高田佳子 著
喜多喜久 著
古野まほろ 著
次郎丸 忍 作
おおいじゅんこ

七城公民館図書室

忘れ物が届きます
曲り角のその先に
にんじゃサンタのなつまつり
コロッケくんのぼうげん

大崎 梢 著
村岡花子 著
丸山誠司 作
二宮由紀子 作

旭志公民館図書室

私に似た人
目は1分でよくなる!
ガマ王子VSザリガニ魔人
おんぶおんぶねえおんぶ

貫井徳郎 著
今野清志 著
後藤ひろひと 文
長 新太 作

「武王の門」上下巻

北方謙三 著



原 保奈美さん (日生野)

南北朝時代の菊池一族第十五代菊池武光と懐良親王の物語。もともと日本史が苦手な私の頭には菊池の歴史がなかなか入ってこない。歴史書の人物像はその名前の向こうに隠れ、誰が誰やらチンプンカンプン。そんなときこの本に出会った。軽妙なタッチと

スリリングな描写にたちまち名前に隠れていた「武光」が、「懐良親王」が、生き生きと動き出してきた。文中に懐良親王と武光が産さん滝で不動明王を岩に彫る場面がある。隈府の館から馬を走らせ、滝に打たれ、一心に岩に向かう姿がそこにあるように見えてくる。実際、産さん滝の近くには「磨崖仏」がある。永い年月を経て、その姿はおぼろげにしか見えないが、北方謙三はこの「磨崖仏」を目にし、懐良親王と武光の人間像に想いを巡らせたのだろうか?

本の文字から景色や人物が立体的に浮かび上がってきた瞬間、本の中へ迷い込んでしまう。そんな一冊である。

耳より情報

★夏! 泗水図書館おすすめ情報★

- ☆「読書マラソン」スタートしました!
小学生を対象に、スタンプカードを用意しています。
- ☆「毎日おはなし会」にきてね!
ボランティアの皆さんが、おはなし会を毎日届けます。
時 間 午後2時~2時30分
- ☆8月の開館時間を変更します
開館時間 午前10時~午後6時(火)~(日)
実施期間 8月31日(日)まで
※金曜日は午後8時まで開館しています。
(11月30日(日)まで)

☆夏・調べものコーナーが役に立つ!

泗水図書館と各図書室では、自由研究や工作などの学習に役立つ「調べものコーナー」を用意しています。夏休みの宿題などにご活用ください。

期 間 8月31日(日)まで

~暑い夏・家族で図書館・図書室に行こう!~



万句の里俳句会 6月例会
目盛りもかまはず次の札所まで
一滴の雫も香る新茶かな
庭先に姉の化身の蛸来る
万緑のきらめき分けて行く旅路
合歓咲きて風穏やかに吹きにけり
北村 妙子
せせらぎ俳句会 6月例会
茹で立ての筍ざるに友の家
運動会リレー応援總立ちす
ほととぎす声遠くなり近くなり
我が恋は宝の一つ天の川
樹々揺らし人なき里の青嵐
藤本 邦治
旭志文芸教室俳句の会6月詠草
摘みたての苺頬張る日和かな
溝さらえ草取り急かす走り梅雨
伽藍へと十葉の花続きけり
中尾ヨシコ

山里に幸福泳ぐ鯉のぼり
芹川 蓉子
肥後狂句水笑会 6月例会
うらやましい夫唱婦随で波立たず
要りません 餌にとびつく年にな
ア 要りません そぎゃん貰てん腐らか
す いさぎいこつけちんぼのくせ寄付さ
した のさん これから嬢と二人きり
柏原 乗仏
七城短歌会 6月詠草
亡き夫の誕生日の朝旧友が自家生産
のパイン持ち来し
緒方 寛子

庭に出て見上ぐる屋根にそそり立つ
鯉の腹突く菴木蓮
村上 幾雄
豌豆のご飯炊き上げ蓋取れば豆の香
りに母思い出す
年経るも土に生きなむ農の性背に負
い出荷の花切り揃ゆ
緒方 正俊
病窓に流れる綿雲目に追えば遙けき
我が家の空に連らなる
岩津 涼子
「里短歌会」6月詠草
ボコボコの父の飯盒捨てられぬ機関
士ひとすじ戦後を拓く
坂本 玲子
久びさに汚染の風のなき朝青き清け
きふるさとの山
宮本 淑子
花菖蒲生けられてあり里の駅「おか
えりなさい」と吾を迎える
桑野 睦子
春の季を逃せしブラウス一枚の壁に
かかれりしよんぼりとして
松本 幾代
お湯呑みの縁まで熱き白湯を入れふ
うふう吹くをだあれもみないで
安見 朱實
菊池短歌会 7月詠草
紅梅の熟実が数多散らばれり神は如
何なる遊びをせしや
山下 菊代
切り口の癒えて抜糸をされし朝樹々
がまぶしく光を返す
山代 静子
風にのり「キューキュー」と耕運機今
日ばかり昼寝の我に心地良く聞こゆ
余語やす子



降る雨にみづみづと起つ紫陽花の如
く我が師よ起き上がれかし
安藤 則子
一輪のバラと帽子と手紙添へ娘の愛
があふる父の日
林 まつ子

